

平成 27 年度 東京都立上野高等学校 学校経営報告

東京都立上野高等学校長
江本 敏 男

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導

- ① 新入生に対し、学習方法の定着を図るため、初期指導として具体的な学習指導を実施した。
- ② 模擬試験結果に基づく学力分析会を実施し、生徒の情報を共有し、課題に対応した学習指導の充実を図った。上野高校学力スタンダードを策定するとともに、教科主任会及び教科会を定期的開催するなど、組織的かつ計画的な学習指導を目指し計画を推進した。
- ③ 1・2 学年での英語・数学の習熟度別授業、各学年 2 クラスの特別進学クラス編成、補習・講習の実施などにより、生徒の理解度に応じた指導を充実させ、生徒の学力の向上を図った。自習室の午後 7 時までの開放延長やチューターの設置による学習環境の充実、1・2 学年の早朝学習実施などを通して、自学自習の態度を育成し、学習習慣の定着と進学に向けた学力の向上を図った。
- ④ 数値目標である家庭学習時間の増加については、各学年において目標値には届かなかったが昨年度を上回る家庭学習時間が確保できた。今後更に、生徒の一層の学力向上に向けた指導を充実させていく必要がある。

イ 進路指導

- ① 進路の手引きを活用した進路ガイダンス、フロンティア講座（1 年生）、大学生によるキャンパス紹介（1 年生）、大学模擬授業（2 年生）、大学入試相談会（3 年生）などの進路行事の実施や、早い段階から進路意識を高めるホームルーム活動での指導などにより、キャリア教育の充実を図った。また、生徒の意識を高める 3 年間を見通した継続的な指導となるよう、模擬試験の設定、進路行事の実施時期の改善を図った。
- ② 模擬試験結果に基づくケース会議を実施し、課題解決に向けた指導を進めた。個人成績分析ソフトの活用研修を実施し、各担任が学力分析をデータ化し、個人面談や学年集会、保護者会等で活用するなど、生徒一人一人の将来設計に基づいた進路指導を進めた。
- ③ 土曜講習、長期休業日中の講習、勉強合宿等の実施により、進学指導を充実させた。国公立大学及び難関私立大学の合格者数が近年で最も高い実績を上げた。また、1・2 年生の国公立大学・難関私立大学への希望が増加した。

ウ 生活指導

- ① 入学前や入学後のあらゆる機会を通じて、本校教育目標の「自主協調」の意味を正しく理解させるよう指導を徹底した。全校ホームルーム委員会などの生徒組織を機能させ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を図った。
- ② 遅刻指導や身だしなみ指導の徹底を図り、規律ある学校生活の実現を目指し取り組んだ。セーフティ教室、自転車安全教室、1 年生全員を対象とした宿泊防災訓練を実施し、安全で規律ある学校生活を送らせる指導を充実させた。
- ③ カウンセリング委員会の構成を見直し、スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実に向け取り組んだ。

- ④ いじめの実態を把握するためのアンケートを実施し、いじめ防止対策委員会において個別具体的な対応の充実を図った。

エ 特別活動・部活動

- ① 生徒の有志活動を積極的に支援し、運動会や文化祭等の学校行事の充実及び各種委員会の活性化に努めた。
- ② 1年生全員による近隣30施設での奉仕体験活動、有志生徒による警察・消防関係行事への参加、近隣中学校及び小学校への部活動生徒による連携活動、地域清掃活動や地域行事への生徒参加など、自主的・実践的な活動を行った。
- ③ 部活動振興予算の重点配付を受け、部活動の活性化に取り組んだ。規律と自覚ある活動を進め、男子バレーボール部が3年連続関東大会に出場し、写真部が全国大会に出場した。

オ 健康づくり

- ① 健康診断時において年生のカウンセリング面談を実施し、生徒の状況把握と初期対応を行うとともに、校内における教育相談組織体制の周知の徹底を図った。
- ② 保健員会の生徒主体の健康保持推進活動を実施した。これまで以上に生徒が自主的に取り組めるような委員会活動となるよう、適切に指導助言していく必要がある。
- ③ カウンセリング委員会、いじめ防止対策委員会のメンバーに学年主任を加え、生活指導部、学年との連携を図り事故の防止に努め、いじめに関するアンケート調査も徹底し、個に応じた指導の充実を図った。

カ 募集・広報活動

- ① 出前授業及び出前講話、体験授業、中高合同教員研修会、上野中学校2年生全員による本校授業見学、近隣中学校との部活動交流など、中高連携事業を進めた。
- ② 区や中学校等が主催する説明会も含め多くの学校説明会に参加し、本校の教育内容や成果を広く周知した。本校で実施した学校説明会には、昨年を上回る参加者を得るなど、地域からの関心を高めることができた。
- ③ 各中学校への募集活動において、1学年生徒が、母校への説明を担当した。また、本校生徒が中学時代に通っていた塾をまとめ、主要な塾への個別訪問説明を行った。
- ④ 入学者選抜の応募倍率は、推薦に基づく選抜では男女とも昨年度を上回り4.13倍、学力検査に基づく選抜では男子は都内で5番目の倍率1.96倍となり、全体では、学区撤廃後最高の1.88倍の高倍率となった。

キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とした学校経営を行い、管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題に組織的に対応した。
- ② 校務分掌内の協働体制と分掌間の連携を深め、校務運営の活性化を図った。
- ③ 主幹会議を定例化させ、学校諸課題への具体的な取り組みを協議させ、方策をたてさせるなど学校ビジョン構築への参画と教育活動の推進を図らせた。
- ④ 年間2回の服務事故研修や企画調整会議、職員会議で文書での服務事故防止の周知徹底をした。
- ⑤ 経営企画室の学校経営参画を促進し、迅速かつ効率的な業務の遂行に取り組んだ。

(2) 重点目標への取組と自己評価

- ① 外部模擬試験に基づく分析会、外部コンサルタントによる授業クリニック（国数英3教科各2名）、授業力向上校内研修、外部委託による授業評価アンケート等を実施し、課題把握や授業改善を行った。
- ② 教科主任会議を定例化し、教科の横断的な連携を深め、土曜日講習の実施計画を策定するなど課題解決への取組を行った。

- ③ 予習・復習の充実に向け、課題等の改善を実践した教科が増えた。また、自習室を午後7時まで開放し、チューターを配置し利用率が高まった。これにより、生徒の授業への意識が高まり、学力の充実につながった。
- ④ 国公立大学や難関私立大学受験に向けた教育課程については、現在、委員会で検討中である。
- ⑤ 特別進学クラスの目的を明確にした要項を策定し、次年度から数学において1クラス2展開の習熟度別授業を実施するなど特色化を推進した。
- ⑥ 7月、10月、1月にケース会議を実施し、進路指導部を中心に課題解決に向けた取り組みを行った。今後は、更なる充実に向けた取組が必要である。
- ⑦ 1学年R-CAP、フロンティア講座、キャリア教育講座、2学年キャリア教育講座等のプログラムを組み将来の自分について考えさせ、文理選択、学部学科・職業選択の指針とした。
- ⑧ 遅刻防止指導等の充実を図り、3年生の皆勤者13名、精勤者74名となり、さらに、1・2年生の染髪者ゼロ、年間20回以上の遅刻者数1名となった。また、身だしなみ指導により、学校行事での標準着用が定着した。
- ⑨ 学校行事や部活動の充実などにより、生徒の学校への帰属意識は高まった。有志活動を積極的に支援するなど、教育目標である「自主協調」を正しく理解させ、その育成を図っていく必要がある。
- ⑩ 学校見学会の案内23区内300校へ送付、塾への学校案内送付（複数生徒在籍約20教室）総務部教員による塾訪問、校長による大手進学塾訪問（7校）等を実施した。また、夏季休業日中に23区内約200校の中学校訪問や1年生の母校訪問を実施した。文化祭にて学校紹介コーナーを企画・実施し広報活動に努めた。
- ⑪ 企画調整会議を中心とした円滑な学校運営を行い、主幹会議も設置した。しかし、分掌間の連携や、連絡報告体制の徹底に課題が残った。

(3) 「今年度の数値目標」の実績

[]内は平成26年度実績、()内は平成27年度目標値

- ① 生徒の家庭学習時間の増加
3年生：300分 [231分] (240分)、2年生：62分 [82分] (120分)
1年生：70分 [53分] (90分)
- ② センター試験の受験者数の維持
300人 [277人] (280人)
- ③ 4年制大学への現役進学者の増加
70.9% [67.3%] (70%)
- ④ 国公立大学の現役合格者の増加
13人 [13人] (20人以上)
- ⑤ 難関私立大学〔早・慶・上智・明治・青学・立教・中央・法政・学習院・理科大〕の現役合格者の増加
123人 [96人] (120人以上)
- ⑥ 卒業時進路決定率
79.7% [77.2%] (80%)
- ⑦ 入学者選抜の高い応募倍率の維持
1.88倍 [1.85倍] (1.90倍)

2 次年度以降の課題と対応策

「地域・東京を代表する進学校」「名門校の復活」に教職員が一丸となって本校の教育活動全般に主体的に取り組むよう学校経営を改善する。

- (1) 平成26年度より進学アドバンス校の指定を受け3年目を迎え、昨年度検討した特別進学クラスの教育をはじめ進学実績の向上への取り組みや教育課程の見直し、大学入試改革の準備等各種会議を通して推進する。
- (2) 健康で安全な学校生活を送ることができるように、教育相談やいじめ防止委員会等を一層充実させ、分掌間及び学年間の連携を密にし、生徒の心身の状態を常に把握する。
- (3) 学習意欲を高める工夫を教科のみならず、特別活動等の学校行事においても検討し、生徒の進路希望の実現に向けて全校体制で取り組む。
- (4) 校内外での基本的な生活習慣と規範意識を確立し、社会的マナーを身につけさせ、上高校生としての自覚と帰属意識を高める取組を全校体制で実施する。
- (5) 地域との連携を一層深め、地域社会のニーズを的確に把握し、地域の信頼を高める教育活動を取り入れる。
- (6) 学校説明会等の募集対策を充実させ、入学者選抜の応募倍率を向上させる。

具体的対応策

- ◇教科主任会議を柱に教科内及び教科間の連携を深め、学習習慣の定着を進める。上野高校学力スタンダードに基づき各教科で基礎基準を明確にするなど、入学年次からの学力の確実な定着を目指す。
- ◇ICTを活用した授業などの工夫、指導法の改善、土曜講習・勉強合宿の特進クラスの必須化、長期休業中の計画的な講習の実施、朝学習の実施、自習室の活用拡大などを通して、生徒の学習意欲を高め学力の向上を図る。
- ◇キャリア教育の全体計画に基づき組織的な進路指導体制を構築し、進路指導部主導で学年との連携を深めた指導を行う。定期的に生徒のケース会議で学力分析を行い、生徒の進路意識を高め、進路実績の更なる向上を目指す。
- ◇面談週間を設定し、保護者と連携を深め生徒の進路意識の向上、支援を図る。
- ◇学校行事や始業式、終業式等儀式的行事では校歌を斉唱するなど、帰属意識を高めるとともに、部活動の活性化と規律ある実践を目指す。また、有志活動を積極的に支援し、有志生徒の能力の育成を図り、学校行事や委員会活動等の充実を目指す。
- ◇集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自己指導能力の育成を図る指導を徹底していく。
- ◇遅刻防止、身だしなみ、授業規律などについて引き続き指導を進め、基本的な生活習慣の定着と規律ある学校生活を送らせる。
- ◇スクールカウンセラーを活用した教育相談体制を拡充させるとともに、いじめ防止対策委員会を充実させ、生徒個々の状況把握と一人一人に応じたきめ細かい指導を組織的に進める。
- ◇台東区の中学校を対象とした授業公開や、体験授業を年間3回実施し、中高連携事業を充実させる。
- ◇宿泊防災訓練での地域、関係機関との連携を継続する。
- ◇塾対象の学校説明会の開催を実施し、本校の教育活動を周知し応募者の増加を図る。